

「土砂災害から命を守るため」

渋川市立渋川中学校 一年 明田 空大

ニュースで大雨のあとに土砂崩れが起きて、家や車がこわれている映像を見たことがあります。そのとき、自然の力はとても強くて、あつという間に人のくらしをうばってしまうのだと思いました。僕はとてもこわくなり、「もし自分の町で同じことが起きたらどうなるのだろう」と考えるようになりました。

土砂災害とは、大雨や台風などで山やがけがくずれて、土や石が流れ出すことです。日本は山が多く雨も多い国なので、毎年のように全国のいろいろな場所で土砂災害が起こっています。家が流されたり道路が通れなくなったりするだけでなく、人の命がうばわれることもあります。だから、ふだんから気をつけることが大切だと思います。

僕は小学生のとき、通学路にがけがありました。そこには土砂崩れをふせぐためのネットのようなものがかけられています。でも雨がふった次の日には、小さな石が道に落ちていくことがあります。そのとき僕は、「もし大きな石や土が落ちてきたらとてもあぶない」と感じました。ニュースだけでなく、身近な場所にも土砂災害の危険があることを知り、自分の生活とつながっていると気づきました。

実際に大きな被害を出した土砂災害のニュースもたくさんあります。広島県では大雨のときに土石流が発生し、多くの家がこわれました。熊本県でも川があふれたり土砂崩れが起きたりして、大きな被害が出ました。テレビで見てもとてもこわかったのですが、現地にいた人たちは本当に大変だったと思います。中にはひなんが間に合わなかった人もいて、早めに行動することの大切さがわかりました。

では、僕たちはどうすれば土砂災害から命を守れるのでしょうか。まず大事な情報は、情報をよく知っておくことです。市や町が作っているハザードマップを見ると、自分の家の場所が安全かどうかを知ることができます。危ない場所に住んでいる人は、雨がふり続いたら早めに準備をしてひなんする必要があります。

次に大切なのは、ひなんのタイミングです。テレビやスマホでひなんのよびかけが出て、「まだ大丈夫だろう」と思ってしまう人が多いそうです。でも土砂災害は一気に起きるので少しでも危ないと感じたらずぐにひなんすることが命を守ることにつながります。家族や近所の人と声をかけ合って、早めに行動することが大切です。

僕の学校でもひなん訓練をしています。前は「また訓練か」と思っていました。実際のニュースを見てからは考えが変わりました。いざというときに落ちついて行動できるようにするためには、練習がとても大事なのだと思いました。ひなん場所やひなんけいろを覚えておくことだけでも安心できます。

家でできることもあります。非常用の持ち出し袋を用意したり、飲み水や食べ物を少し多めにたくわえたりすることです。僕はまだ一人ではできませんが、家族といっしょに非常袋の中を見て、食べ物の賞味期限を確かめました。こうした小さな工夫も、いざというときに役立つと思います。自分にできることを少しずつしていきたいです。

土砂災害は自然が相手なので完全には防げません。でも、前もって備えておけば被害を少なくすることはできます。僕はニュースで見たこわい映像や、通学路で感じた危険をわすれずに、これからも防災について考えていきたいです。そして自分だけでなく、まわりの人にも声をかけられるような行動をしたいです。たとえば雨が続いたときにひなんした方がいいねと家族に言えるようになります。なりたいと思います。

災害はいつどこで起こるかわかりません。だから「自分は大丈夫」と思わずにみんなが本気で向き合うことが必要です。僕はこれから学校のひなん訓練にしっかりと参加し、家でもかぞくと防災について話し合いたいと思います。

そして大人になってもこの気持ち大切にしたいです。命を守るためできることを考え、行動することが、私たちの未来を守ることにつながると思います。